

## 第2章4節

### 看護師国家試験成人看護学分野の状況設定問題の出題内容・形式の分析および評価と作問への提言 ～ 問題分析とフォーカスグループインタビュー調査を通して ～

大阪医科大学 鈴木 久美  
神戸市看護大学 江川 幸二  
大阪大学 清水 安子  
大阪医科大学 府川 晃子

#### 研究要旨

本研究は、過去3年間の看護師国家試験のうち成人看護学分野からの出題とされている状況設定問題の内容の適切性、習熟度や問題構成、出題形式等の妥当性について、問題分析とフォーカスグループインタビューを行い、評価、検討し、新たな課題を明らかにすることを目的とした。問題分析は、各問題の正解率と識別指数をもとに良問か否かを判別した。フォーカスグループインタビューは、関西地区の看護師学校養成所20施設の成人看護学を担当している教員を対象に行った。調査の結果、問題分析の分析対象は9状況24問であり、良問が17問(70.8%)、改善により良問となりうる問題が7問(29.2%)で、出題意図が明確な問題は21問(87.5%)、難易度が適切な問題は20問(83.3%)であった。また、フォーカスグループインタビューの分析結果として、出題の意図が明確な問題は15問(62.5%)、難易度が適切な問題は9問(37.5%)であり、殆どの問題が基礎教育の教授内容から逸脱していないという結果であった。しかし、状況が「現実的でない」あるいは「情報の過不足」がある問題が14問(58.3%)と多かった。本研究結果より、良い問題を作成するためには、出題の意図を明確にした上で、臨床に即した状況にし、状況文から判断できる設問や選択肢となるように改善していくことが重要と考える。

#### 1. 研究目的

本分担班は、過去3年間の看護師国家試験のうち、市販の問題集で成人看護学分野からの出題とされている状況設定問題の内容の適切性、習熟度や問題構成、出題形式等の妥当性について、看護基礎教育の施設で成人看護学の教育に携わる教員を対象にフォーカスグループインタビューを行い、出題内容・形式の分析および評価を行った。それにより、看護師国家試験における新たな出題方法や形式、出題内容に関する課題を明らかにすることを目的とした。

#### 2. 研究方法

##### 1) 問題分析

平成28年から30年度までの過去3年間の看護師

国家試験における成人看護学分野からの出題とされている状況設定問題の13状況36問について分析した。分析方法は、教員2名1組となり計4名の教員で、1人18問ずつ問題分析シートを用いて問題分析を行った。各問題は正解率、識別指数をもとに「良問」あるいは「改善により良問となりうる問題(以下、改善問題)」を判別し、改善問題については修正点や改善点をあげた。そして、4名の教員で全問題の分析結果を吟味し、各問題について最終的な「良問」あるいは「改善問題」であるかどうかを決定した。

その後、フォーカスグループインタビューで用いる問題の抽出を行った。抽出基準は「良問」が半数以上含まれている状況とし、9状況24問を抽出した。

## 2) フォーカスグループインタビュー

### (1) 対象

関西地区の看護師学校養成所の施設リストの中から機縁法により 20 施設の成人看護学の責任者あるいは養成所の学校長、副校長に対し研究協力を依頼した。承諾の得られた施設の当該分野の教員宛に、インタビュー開催日を提示した上で研究説明文書、同意書、検討予定の問題、インタビューガイドを送付した。

### (2) データ収集方法

参加意思を示した研究対象者に、フォーカスグループインタビューで検討予定の問題を 1 施設につき 6 問とインタビューガイドを予め送付し、事前に内容を検討し、職場の同僚の意見も尋ねるよう依頼した。

9 状況 24 問題について、フォーカスグループインタビューで意見を収集した。なお、グループインタビュー当日に都合が悪くなった教員や日程調整がつかない教員に対しては個別インタビューで対応した。また、1 グループにつき 5 名の参加者となるようにグループを設定した。

フォーカスグループインタビューは、1 グループあたり 2 名の研究協力者がファシリテータとなり、インタビューガイドに則って行った。1 グループあたり、2～3 状況 6 問について尋ねた。インタビューガイドの内容は、問題の出題意図、難易度、教授内容との適切性、臨床において必要な知識か否かなどであった。また、インタビューの内容は研究対象者の許可を得たうえで、IC レコーダーに録音をした。

### (3) 分析方法

インタビューの内容は録音ならびに筆記で記録し、録音データの逐語録の内容と筆記録をデータとして、質的記述的に内容分析を行った。

分析の際には分析シートを利用し、質問項目ごとにマトリックス表を作成した。

### (4) 倫理的配慮

本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査の承認後（承認番号：19-A030）、大阪医科大学研究倫理委員会の承認（承認番号：看-133）を得て行った。

## 3. 研究結果

### 1) 問題分析

#### ①分析した問題の総数と抽出した問題

分析した問題は、第 106 回（平成 28 年度）の午後 115～120、第 107 回（平成 29 年度）の午前 91～93、午後 91～96、第 108 回（平成 30 年度）の午前 94～96、午後 91～96 の 9 状況 24 問であり、表 5-1 と表 5-2 を参照のこと

#### ②問題分析の結果

分析対象の問題は 24 問で、良問が 17 問（70.8%）、改善問題が 7 問（29.2%）であった。タキソノミーの分類では、I' の推定が 1 問、II の解釈型が 20 問、III の問題解決型が 3 問であり、解釈型が最も多かった。また、出題の意図は、明確が 21 問、曖昧が 3 問であり、明確な問題が 87.5%を占めていた。難易度は、適切が 20 問、不適切が 4 問であり、適切が 83.3%であった。

表1 問題分析の結果 分析対象問題数合計=24(17+7)

問題数	数	(%)		
a:良問	17	70.8		
b:改善により良問となりうる問題	7	29.2		
a,b以外の問題	0	0.0		
合計	24	100.0		

  

タキソノミー	a:良問		b:改善により良問となりうる問題		合計	
	数	(%)	数	(%)	数	(%)
I	0	0.0	0	0.0	0	0.0
I'	1	5.9	0	0.0	1	4.2
II	14	82.4	6	85.7	20	83.3
III	2	11.8	1	14.3	3	12.5
合計	17	100.0	7	100.0	24	100.0

  

出題の意図は適切か	a:良問		b:改善により良問となりうる問題		合計	
	数	(%)	数	(%)	数	(%)
明確	16	94.1	5	71.4	21	87.5
曖昧	1	5.9	2	28.6	3	12.5
合計	17	100.0	7	100.0	24	100.0

  

難易度は適切か	a:良問		b:改善により良問となりうる問題		合計	
	数	(%)	数	(%)	数	(%)
適切	16	94.1	4	57.1	20	83.3
不適切	1	5.9	3	42.9	4	16.7
簡単すぎる	1		2		3	
難しすぎる(高度な知識が必要)	0		1		1	
合計	17	100.0	7	100.0	24	100.0

#### ③正答肢に関する評価の概要

正答肢数は合計 29 個であった。正答肢を選ぶために必要な基礎知識の根拠は、「事実に基づいた知識」が 19 問（65.5%）と最も多く、次いで「手順として教科書に記載されている知識」が 4 問（13.8%）であった。また、難易度は、適切が 24 問と 82.8%を占め、「簡単すぎる」が 3 問（10.3%）、「高度な知識が必要で難しすぎる」が 2 問（6.9%）であった。さらに、出題の意図における基礎的知識そのものになっていな

適切な正答肢は全問であった。基礎知識がないと選択できない正答肢は、27問で90%以上であり、語尾だけでわかる正答肢が2問(6.9%)みられた。

表2 正答肢に関する評価 正答肢数(29個)

正答肢を選ぶために必要な基礎的知識の根拠は以下のいずれにあたるか	数	(%)
①事実(解剖・病態生理学、薬理学)	19	65.5
②研究的に確かめられたエビデンスがある知識	3	10.3
③②ではないが、広く認められた理論であり、教科書に記載されている	3	10.3
④②ではないが手順等として教科書に記載されている。(慣習・経験的知識)	4	13.8
⑤法令や制度、綱領として成文化されている。(慣習・経験的知識)	0	0
⑥①～⑤には当たらない患者の希望・心理・倫理に関する知識	0	0
総数	29	100.0
難易度は適切か	数	(%)
適切	24	82.8
不適切	5	17.2
簡単すぎる	3	
難しすぎる(高度な知識が必要である)	2	
難しすぎる(設問文が難解で理解が難しい)	0	
総数	29	100.0
正答肢が出題の意図における基礎的知識そのものになっていないか	数	(%)
なっていない(適切)	29	100.0
なっている(不適切)	0	0
総数	29	100.0
正答肢は基礎的知識がなくても選択できるようになっていないか	数	(%)
なっていない(適切)	27	93.1
なっている(不適切)-語尾だけで分かる	2	6.9
なっている(不適切)-病名だけで分かる	0	0.0
なっている(不適切)-その他	0	0.0
総数	29	100.0

#### ④誤答肢に関する評価の概要

誤答肢数は合計で75個であった。誤答を除くために必要な基礎知識の根拠は、「事実に基づいた知識」が52問(69.3%)と最も多く、次いで「広く認められた理論であり、教科書に記載されている知識」が13問(17.3%)、「手順として教科書に記載されている知識」が7問(9.3%)の順であった。出題の意図と一貫している誤答肢は66問と88%を占めており、一貫していない誤答肢が12%みられた。さらに、難易度は、適切が59問と約8割を占め、「高度な知識が必要である」が13問(17.3%)、「簡単すぎる」が3問(4%)であった。そして、基礎知識がなくても選択できる不適切な誤答肢は8問10.7%であった。

表3 誤答肢に関する評価 誤答肢数(75個)

誤答を除くために必要な基礎的知識の根拠は以下のいずれにあたるか	数	(%)
①事実(解剖・病態生理学、薬理学)	52	69.3
②研究的に確かめられたエビデンスがある知識	3	4.0
③②ではないが、広く認められた理論であり、教科書に記載されている	13	17.3
④②ではないが手順等として教科書に記載されている。(慣習・経験的知識)	7	9.3
⑤法令や制度、綱領として成文化されている。(慣習・経験的知識)	0	0.0
⑥①～⑤には当たらない患者の希望・心理・倫理に関する知識	0	0
総数	75	100.0
出題の意図と一貫しているか	数	(%)
適切(一貫している)	66	88.0
不適切(一貫していない)	9	12.0
総数	75	100.0
難易度は適切か	数	(%)
適切	59	78.7
不適切	16	21.3
簡単すぎる	3	
難しすぎる(高度な知識が必要である)	13	
難しすぎる(設問文が難解で理解が難しい)	0	
総数	75	100.0
誤答肢は基礎的知識がなくても選択できるようになっていないか	数	(%)
なっていない(適切)	67	89.3
なっている(不適切)-語尾だけで分かる	0	0.0
なっている(不適切)-病名だけで分かる	0	0.0
なっている(不適切)-その他	8	10.7
総数	75	100.0

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない

#### ⑤状況文に関する評価の概要

状況数は24個であり、基礎的知識に照らして正解を判断するために提示されている情報と内容が適切というものが15問で62.5%を占めており、情報が不足して不適切というものが8問(33.3%)であった。また、判断に必要なだが不自然な情報がないものが23問(95.8%)と殆どを占めていた。さらに、正答肢以外の選択肢を成立させる、または魅力的にするための情報があるというものが6問(25.0%)と少なかった。

表4 状況文に関する評価 状況数(24個)

基礎的知識に照らして、正解を判断するために提示されている情報と内容は適切か	数	(%)
適切	15	62.5
不適切-多すぎる	1	4.2
不適切-不足している	8	33.3
総数	24	100.0
判断に必要なだが不自然な(現実的ではない)情報はないか	数	(%)
ない	23	95.8
ある	1	4.2
総数	24	100.0
問いの正答を導くために必須ではないが現実の実践では判断指標としてセットで収集されるであろう情報はるか	数	(%)
ない	22	91.7
ある	2	8.3
総数	24	100.0
正答肢以外の選択肢を成立させる、または魅力的にするための情報はるか	数	(%)
ない	18	75.0
ある	6	25.0
総数	24	100.0

#### 2) フォーカスグループインタビュー

問題分析の抽出基準をもとに抽出した9状況24問について、フォーカスグループインタビューを4グループに、個別インタビューを3名に行った。研究対象者は20名であり、国公立大学が6名、私立大学が10名、看護専門学校が4名であった。フォーカスグループインタビューの結果を表6に示す。

##### ①出題の意図の明確さ

出題の意図は、「明確」が15問(62.5%)、「曖昧」が9問(37.5%)であった。不明確な問題は、「状態のアセスメントで適切なのはどれか」や「心臓リハビリテーションで適切なのはどれか」、「看護で最も適切なのはどれか」など、設問が抽象的で出題意図の焦点化ができていないものや、状況文と設問文とが合致していないものなどに見られた。

##### ②難易度は適切か

難易度については、「適切」が9問(37.5%)であり、「高い」が3問(12.5%)、「低い」あるいは「低い

～適切」が 8 問 (33.3%)、「判断が難しい」が 4 問 (16.7%) であった。難易度が高い理由は「実習で受け持つことがない」、「授業のなかで取り上げていない」などであった。また、判断が難しい理由は、「出題の意図が不明確であり判断ができない」や「状況設定と選択肢が合致していないので判断できない」という意見であった。

③正答肢を選ぶあるいは誤答肢を除くために必要な知識について根拠は明確か

必要な知識の根拠について「明確」が 17 問 (70.8%)、「不明確」が 7 問 (29.2%) であった。「不明確」な理由は「テキストに取り上げられていない」、「状況文と選択肢が合致していない」、「状況文に対する出題の意図が曖昧である」があげられた。

④設問は臨床において必要な知識を問う問題となっているか

臨床において必要な知識を問う問題と「なっている」が 17 問 (70.8%)、「判断が難しい」が 3 問 (12.5%) であった。「判断が難しい」理由として、「状況設定が臨床現場に合っていない」「臨床現場に即した状況の判断力を問う問題になっていない」があげられた。また、聞き取りができていないものが 4 問あった。

⑤看護基礎教育の教授内容から逸脱していないか  
教授内容から「逸脱していない」が 20 問 (83.3%)、「逸脱している」が 1 問 (4.2%)、「判断が難しい」が 1 問 (4.2%) であった。「逸脱している」や「判断が難しい」理由として、「基礎教育で取り扱っていない」、「メジャーな疾患でない」があげられた。聞き取りができていないものが 2 問あった。

⑥改善すべき内容と具体的にどのように改善したらよいか

「出題の意図を明確にする」「状況文と設問文、選択肢を合致させる」「臨床現場に合った状況にする」「状況文において患者の臨床経過を明確にする」「状況文を活かした設問文や選択肢にする」「設問文を具体的にする」「看護師としての判断力を問える問題にする」「思考のプロセスを問えるようにする」「検査値の示し方で誤差範囲の値は判断が難しいため、明確

な異常値にする」「学生がイメージしやすい状況文にする」「魅惑肢を工夫する」などがあげられた。

⑦選択肢が出題の意図の原則そのものとなり、個別状況が不要ではないか

個別状況が「不要でない」が 10 問 (41.7%)、「不要である」が 14 問 (58.3%) であった。不要である理由として、「一部の情報のみから解答できる」「状況文が活かされていない」「一般問題のようになっている」「状況文あるいは設問文が選択肢と合致していない」「状況文が少ない」などがあげられた。

⑧正答肢が状況に関する知識がなくても選択できるようになっていないか

知識がなくても選択できるように「なっていない」は 21 問 (87.5%)、「なっている」は 2 問 (8.3%)、「判断が難しい」が 1 問 (4.2%) であった。「なっている」理由として、「正答肢を読んで判断できる」があげられた。

⑨設問文は連問ではなく単問の形式で実践能力を評価できているか

単問の形式で実践能力を「評価できている」は全問であった。

⑩状況文は現実的かつ多すぎではないか

状況文は「現実的あるいは多すぎでない」が 10 問 (41.7%)、状況文が「現実的でない」あるいは「情報量に過不足がある」が 14 問 (58.3%) であった。特に状況文が「現実的でない」あるいは「情報の過不足がある」理由として、「状況文が複雑である」「看護師が判断する範疇でない選択肢がある」「現在の臨床現場と合っていない」「不必要な情報が多い」「検査値が多くストレスである」などがあげられた。

⑪問題の情報量と回答に要する時間の関係は適切か

情報量と回答に要する時間の関係は「適切」が 19 問 (79.2%)、「不適切」が 4 問 (16.7%)、「判断できない」が 1 問 (4.2%) であった。「不適切」な理由として、「状況文が複雑である」「不必要な情報が多い」「多くの検査データを読まなければならない時間がかかる」があげられた。

#### 4. 考察

問題分析の結果、良問は17問(70.8%)、改善問題7問(29.2%)であった。良問に関する問題は、出題の意図が明確で、難易度が適切であるという特徴がみられた。また、良問と判断した問題は、フォーカスグループインタビューの結果からみても、出題の意図が明確で、難易度も適切であり、臨床に必要な知識を問う問題になっているものが多かった。しかし、状況文が現実的である問題とそうでない問題が混在していた。正解率や識別指数を反映して判断した良問であっても状況文が現実的であるかどうかは、必ずしも一致するとは限らないため、臨床現場に即した状況であるかどうかを念頭に置いて作問する必要があると考える。

一方、改善問題は、出題の意図が曖昧であり、難易度が高いあるいは低い傾向であった。フォーカスグループインタビューの結果からみても、出題意図が曖昧であり、難易度が適切でなく、個別状況がなくても判断できる問題が多くみられた。そして、改善問題に対する改善点として、「出題の意図を明確にする」「状況文と設問文、選択肢を合致させる」「状況文において患者の臨床経過を明確にする」「臨床現場に合った状況にする」「状況文を活かした設問文や選択肢にする」などがあげられた。医療の高度化・複雑化が増す中で、看護師には対象の多様性・複雑性に対応した看護を想像する能力が求められている(厚生労働省, 2019) 昨今、臨床状況に即した看護実践能力を評価できる試験となるように工夫することが重要と考える。しかし、臨床状況に即した状況設定をしようとすると情報過多となったり、学生の習熟度とのギャップが生じ「不必要な情報が多い」「検査値が多くストレスである」など難易度の高い問題となってしまう可能性もある。今回のフォーカスグループインタビューの結果を踏まえるとそうした問題の解決のためには、出題意図を明確にした上で、状況文と設問文、選択肢の一貫性を考慮し、臨床状況に即した判断力が問えるように改善することがその解決につながるのではないかと考えられた。特に看護は科学的根

拠に基づいて判断し実践することが重要視されていることから(日本看護系大学協議会, 2018; 厚生労働省, 2019)、学生が卒業する時点で基礎知識のみならず臨床判断や実践力がどの程度身についているかを評価することが求められる。したがって、臨床現場に即した状況文となるように工夫し、判断のプロセスが問える設問文や選択肢にしていく必要があると思われる。そのためには、タキシノミーとして問題解決型を多く取り入れ、行動レベルの選択肢のみならず、行動や実践の意図や根拠を問うような選択肢も導入すると判断力を問える問題となりうると思う。

また問題分析の結果、状況文に正答肢以外の選択肢を成立させる、または魅力的にするための情報がある問題が6問中、良問は5問(83.0%)であるのに対し、そうした情報がない問題が18問中、良問は12問(66.7%)であった。このことから、良問であっても、状況文に魅力的な情報が少ないことが読みとれる。したがって、さらなる良問とするためには、魅力的となるような情報を吟味したうえで、情報量が多くなるように状況文を作成することが重要と考える。そうすることで、さまざまな情報の中から必要な情報を取捨選択する力や、本質を見抜く力すなわち判断力を問えるような問題となりえると思われる。

#### 5. 結論と今後への提言

良問に関する問題は、出題の意図が明確で、難易度が適切であるが、状況文の現実性には課題がみられた。一方、改善問題は、出題の意図が曖昧であり、難易度が高いあるいは低く、個別状況がなくても判断できる問題が多くみられ、フォーカスグループインタビューの結果とも概ね一致していた。今後、良問を増やしていくためには、出題の意図を明確にした上で、臨床に即した状況に設定し、状況文から判断できる設問文や選択肢となるように一貫性に留意し、魅力的な情報を含めて作問していくことが望まれる。

## 6. 文献リスト

厚生労働省. (2019). 看護基礎教育検討会報告書.

<https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557>

411.pdf. (最終閲覧日 2020年1月25日)

日本看護系大学協議会. (2018). 看護学士課程教育

におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標.

<http://www.janpu.or.jp/file/corecompetency.pdf>. (最

終閲覧日 2020年1月25日)

表 5-1 抽出した問題一覧

問題番号	国家試験問題	状況文/設問文	良問/改善
1	106 午後 115	状況文: 23歳男性でマラソンの途中で意識混濁となり救急搬送され、熱中症のために気管挿管と人工呼吸器管理がされており、身体所見、検査所見が示されている 設問文: Aさんの状態のアセスメントで適切なのはどれか	良問
2	106 午後 116	状況文: その後、腎不全が悪化し、1週間の持続的血液透析をしたところ、状態が安定し退院することとなった 設問文: Aさんへの退院指導で適切なのはどれか	良問
3	106 午後 117	状況文: 60歳男性で狭心症の既往があり、散歩中に胸痛が出現して救急搬送され急性心筋梗塞と診断された 設問文: このときの検査所見として適切なのはどれか	良問
4	106 午後 118	状況文: 心臓カテーテル検査で緊急冠動脈バイパスが必要と判断され手術を受け、その後集中治療室から一般病棟に転倒し、リハビリテーションを行っている 設問文: Aさんへの心臓リハビリテーションについて適切なのはどれか	改善により良問となりうる問題
5	106 午後 119	状況文: 32歳女性、会社員で全身性エリテマトーデスと診断され治療目的で入院した。入院時の身体所見と血液所見が示されている 設問文: 入院時のアセスメントで正しいのはどれか	良問
6	106 午後 120	状況文: Aさんはプレドニゾロン60mg/日が開始となった 設問文: Aさんへの説明で適切なのはどれか	改善により良問となりうる問題
7	107 午前 91	状況文: 56歳男性で不規則な生活をしているコンビニエンスストアの店長である。仕事中に胸部の圧迫感が繰り返し出現するため狭心症疑いで検査をすることになり、運動負荷心電図検査(トレッドミル運動負荷試験)を受け、その結果が示されている 設問文: この時の心電図の所見で適切なのはどれか	良問
8	107 午前 92	状況文: 検査の結果、労作性狭心症と診断され内服薬が開始となった。1か月外来通院をしたが、症状がみられるため経皮冠動脈形成術を受け、手術中から抗凝固療法を実施している 設問文: 手術直後の観察項目として適切なのはどれか	良問
9	107 午前 93	状況文: 手術4日後に退院することになったが、Aさんは退院後に症状が出現するのではないかと心配している 設問文: Aさんに対する退院指導の内容として適切なのはどれか	改善により良問となりうる問題
10	107 午後 91	状況文: 62歳男性の一人暮らしで、糖尿病と肺炎の既往歴を有している。感冒様症状があり特発性肺線維症による間質性肺炎と診断され入院した。生活歴、身体所見、検査所見が示されている 設問文: 入院時のAさんの身体状況のアセスメントで適切なのはどれか	良問
11	107 午後 92	状況文: 入院後に呼吸機能検査を受けることとなり、換気障害の図が示されている 設問文: Aさんの呼吸機能検査の結果で考えられるのはどれか	良問
12	107 午後 93	状況文: 入院後18日が経過し、自宅へ退院することになったが、Aさんが呼吸困難に対する不安を訴えている 設問文: Aさんの症状を自己管理できるように指導する内容で適切なのはどれか	良問

表 5-2 抽出した問題一覧つづき

問題番号	国家試験問題		状況文/設問文	良問/改善
13	107	午後 94	<p>状況文: 52歳女性で、突然の激しい頭痛と悪心が出現し救急搬送され、くも膜下出血と診断され集中治療室に入室した</p> <p>設問文: 入室から24時間以内に注意すべきAさんの症状や徴候はどれか</p>	良問
14	107	午後 95	<p>状況文: 検査により右中大脳動脈に動脈瘤が確認され、脳血管内治療(コイル塞栓術)の術後6日目に意識レベルの低下とバレー徴候が出現した</p> <p>設問文: Aさんに生じていることとして最も考えられるのはどれか</p>	良問
15	107	午後 96	<p>状況文: 手術14日の頭部CTで右大脳半球に小範囲の脳梗塞が認められ、ADLと意識レベルの状況が示されており、Aさんが左片麻痺で動こうとしない状況である</p> <p>設問文: Aさんへの看護で最も適切なのはどれか</p>	改善により良問となりうる問題
16	108	午前 94	<p>状況文: 37歳女性、会社員で夫と2人暮らしである。入浴中に乳房のしこりに気づき、検査を受けたところ乳癌と診断された</p> <p>設問文: 確定診断のため、Aさんに行われた検査はどれか</p>	良問
17	108	午前 95	<p>状況文: 乳房温存療法を希望したが、乳房の腫瘍が大きく術前化学療法(EC療法)をすることになった</p> <p>設問文: Aさんに起こりやすい障害はどれか</p>	改善により良問となりうる問題
18	108	午前 96	<p>状況文: 仕事を継続しながら1サイクル目の化学療法を受けた後、2サイクル目の治療のために来院し、患者の訴えや身体所見、検査所見が示されている</p> <p>設問文: 2サイクル目の化学療法を受けたAさんに行ってもらうセルフモニタリングで最も重要なのはどれか</p>	良問
19	108	午後 91	<p>状況文: 52歳男性で、5年前にC型肝炎、肝硬変と診断され、1回の入院歴があるが、通院を3年間中断していた。吐血して緊急入院になり、身体所見と検査所見が示されている</p> <p>設問文: 入院時のAさんの状態として最も考えられるのはどれか</p>	良問
20	108	午後 92	<p>状況文: 入院から4日が経過し、肝細胞癌のスクリーニング目的で肝臓から骨盤内臓器までの範囲で腹部超音波検査を受けることになった</p> <p>設問文: 検査前日に看護師が行う説明で正しいのはどれか</p>	改善により良問となりうる問題
21	108	午後 93	<p>状況文: 検査の結果、C型肝炎に対する抗ウイルス療法が開始され、退院後は定期的に通院することになった</p> <p>設問文: 退院に向けたAさんへの食事指導で適切なのはどれか</p>	良問
22	108	午後 94	<p>状況文: 58歳男性の会社員で、妻と2人暮らし。高血圧症と脂質異常症の既往があり、急激に症状が出現し、右中大脳動脈領域の脳梗塞と診断された。2日後からリハビリが開始され、1週間後には回復期リハビリテーション病棟へ移動した</p> <p>設問文: Aさんの脳梗塞の原因で考えられるのはどれか</p>	良問
23	108	午後 95	<p>状況文: 入院から3週が経過し、リハビリテーションによりADLは改善しているが、Aさんは夜も眠れず、食欲も低下し、良くなないと看護師に訴えた</p> <p>設問文: 現在のAさんへの声かけで、最も適切なのはどれか</p>	良問
24	108	午後 96	<p>状況文: 病棟への転棟から6週が経過し、退院に向けて多職種チームでカンファレンスすることになった。Aさんは、リハビリテーションを継続しながら職場復帰を希望している</p> <p>設問文: Aさんの退院前カンファレンスで適切なのはどれか</p>	改善により良問となりうる問題

表8. 看護・成人 フォーカスグループインタビュー結果

設問				必修問題・状況設定問題共通					
No	第○回	午前 午後	問題 番号	①出題の意図は明確か	②難易度は適切か	③正答肢を選ぶ、あるいは誤答肢を除くために必要な知識について根拠は明確か	④設問は臨床において必要な知識を問う問題となっているか	⑤看護基礎教育の教授内容から逸脱していないか	⑥改善すべき内容と具体的にどのように改善したらよいか
1	看護師106	午後	115	「曖昧である」 【状況が全体的に複雑であり、出題の意図が明確ではない】 【何をアセスメントしたいのか出題の意図がわかりにくい】 【熱中症というキーワードが出てくるにも関わらず、そのものをアセスメントさせていないところが問題である】	「難易度が高い」 【寝中痛は実習で学生が受け持つことがない】 【授業の中でも熱中症は殆ど触れない】 【いくつかの検査所見をアセスメントするのは難しい】 【普通に看護師をやっているとなじみがない状況である】	「不明確である」 【テキストにこのような状況は取り上げられていない】 【状況設定とアセスメントしてほしいところが合致していない】	「臨床で必要な知識を問う問題になっている」 【熱中症で脱水が生じて尿量が少ない状況から判断させる意図であると思う、実践に即した問題になっている】	「教授内容から逸脱している」 【横紋筋融解症は基礎教育では触れておらず、メジャーな疾患ではない】 【横紋筋融解症はテキストにも掲載されていない】	「熱中症であれば、脱水のことを問うようなシンプルな状況設定にして、初期対応を問う問題でもよい」 【状況文と設問、選択肢が合致するように改善する必要がある】 【状況設定と設問があてはらず、検査データを見て判断させるような問題になっており、状況が活かされていない】 【事故とかでのクラッシュ症候群など学生がイメージしやすい状況にする】 【選択肢は、看護師が利尿剤の使用が必要かどうかの判断はしないため、別の選択肢にした方がよい】
2	看護師106	午後	116	「曖昧である」 【急性腎不全の回復期で、落ち着いてきたら食事指導も何もいなくなるが、何に焦点を当てた退院指導なんだろうという疑問が生じる】 【この設問は、何を目標しているのかわかりにくい】	「難易度の判断が難しい」 【状況自体不明確なので、難易度の判断ができない】 【急性腎障害を起こしたときにも、その回復過程において慢性腎不全と共通する腎不全であることを考慮した生活指導が必要であることを読み解く難しさがある】	「不明確である」 【腎不全としか書いておらず、おそらく急性腎不全と思われるが、この場合は回復期になると食事制限が必要ない】	「臨床で必要な知識を問う問題になっているか判断が難しい」 【慢性期腎不全であれば食事指導が重要になるが、急性腎障害の場合食事制限は必要ない】 【実際の臨床状況と設問の状況設定がそぐわない】	「教授内容から逸脱しているか判断が難しい」 【出題の意図と適切性について問題がある】 【現在の基礎教育では急性腎不全にならないように患者教育することが中心になっている】	「食事指導に焦点を当てたのであれば、慢性腎不全で出題したほうが適切である」 【状況を読みださずにイメージがつきにくいため、患者の臨床経過を明確にする】 【状況に人工呼吸器からの離脱の時期や気管チューブ、膀胱留置カテーテルの抜去の時期などの臨床経過が入るとわかりやすい】
3	看護師106	午後	117	「明確である」 【急性心筋梗塞の診断であり、この検査所見であれば解答を導ける】 【設定しやすい普通の問であり、出題の意図は明確である】 【急性心筋梗塞の病態や診断を問うている問題であり明確である】 【設問の「このとき」が発作が起こったときなのか、「入院時」なのか不明確】	「難易度は低い」 【学生には一番分かってほしいことではあるが、当たり前のような知識で簡単である】	「明確である」 【狭心症の既往があるためわかりやすい】 【急性心筋梗塞といえばSTの上昇とどのテキストでも記載されている】	「臨床で必要な知識を問う問題になっている」 【これを知らない看護師にはなっていないというレベルである】	「教授内容から逸脱していない」 【急性心筋梗塞といえばST上昇ほどのテキストにも記載されている】 【基礎教育で絶対マスターしてほしい知識である】	「難易度を上げるとすれば、波形として選択できるかどうかを入れると判断力を見ることが出来る」 【言葉の選択肢だけでなく、波形も読み取らせる設問だと良い】 【ST上昇を正答とするのであれば、魅惑肢を入れたほうがよい】 【設問のこのときが発作が起こったときなのか、「入院時」なのか不明確なので、時点を明確にするとい】
4	看護師106	午後	118	「曖昧である」 【心臓のリハビリテーションの何を問いたいのが明確でない】 【選択肢が状況とマッチしていない】	「難易度の判断が難しい」 【何を問われているかが今一つ不明瞭なので、判断が難しい】	「不明確である」 【状況設定に対する選択肢が適切でないため、何を問いたいのかわかりにくい】 【200m歩行の許可がでていて、胸痛症状の出現や心電図の変化は認めない場合、選択肢に「息苦しさが出たら中止する」というのが入っていることに違和感がある】	「臨床で必要な知識を問う問題になっている」 【看護師は急性心筋梗塞後の患者が障害を受けた心機能を理解して、心負荷をどう評価し、どう援助していくかが重要である】	「教授内容から逸脱していない」 【心筋梗塞後の心臓リハビリテーションは必要である】 【急性心筋梗塞を起こした人には、急性期から回復期に負荷をかけながら運動療法を継続していくことは大事である】	【心臓リハビリテーションを安全に行うための注意が必要か】とか、「安全な日常生活をするための指導について答えよ」まで設問の仕方を工夫するとい 【状況や検査データを補足し、看護師として何を判断させるか意図を明確にした設問にするほうが良い】 【心臓リハビリテーションは病院においてどのくらい一般的であるかわからないため、心臓リハビリと言わずに運動療法の継続でも問題は成り立つ】 【重症度を下げて、退院前の状況設定にして、運動療法を継続するにあたっての指導を問う設問にするとい】

表6. 続き

設問				必修問題・状況設定問題共通					
No	第○回	午前 午後	問題 番号	①出題の意図は明確か	②難易度は適切か	③正答枝を選ぶ、あるいは誤 答枝を除くために必要な知識 について根拠は明確か	④設問は臨床において必要 な知識を問う問題となってい るか	⑤看護基礎教育の教授内容 から逸脱していないか	⑥改善すべき内容と具体的 にどのように改善したらよい か
5	看護師106	午後	119	「明確である」 【疾患がSLEなので、膠原病の中 でも代表的な疾患である】 【SLEといえは腎機能というは割と 大事なことから教育される内容で もある】この設問に関しては比較的 明確である。	「適切である」 【疾患名と検査データが分かってい たら解答できる】	「明確である」 【疾患の病態と検査データが分かっ ていれば答えられる】 【検査値が分かれば解ける問題 である】	「臨床で必要な知識を問う問題に なっている」 【クレアチン値の基準値が分かる という意味では、大事な設問である】	「教授内容から逸脱していない」 【疾患がSLEであり、膠原病の中 でも代表的な疾患である】 【SLEといえは腎機能というは 大事なことから教育される内容 である】	【検査データの示し方で誤差範囲の 値は判断が難しいため、明らかに 逸脱している異常値にする方が 良い】 【注目すべき検査値は何かとか、重 症度の評価においてどんな検査値 に着目するかを問う問題でも良い】
6	看護師106	午後	120	「明確である」 【SLEのこととステロイドのことが分 かってないと解けない問題であり、 とても明確である】	「適切である」 【状況設定問題ならではの設問であ り、いい問題だと思う】	「明確である」 【SLEのこととステロイドのことが分 かってないと解けない問題である】	「臨床で必要な知識を問う問題に なっている」 【臨床において必要な知識を問う ものになっており、実践的な問題 である】	「教授内容から逸脱していない」 【SLEはオーソドックスであり、学生 としては押さえておくべきところ である】	【選択肢を修正したほうが良い。例 えば「食事の制限はありません」と いうのを「食事のことを気にする 必要はありません」という表現に するほうが良い】 【選択肢5の意図が不明瞭であり、 看護師は「治療で改善すると抗核 抗体が陰性になります」とはあまり 臨床では説明しない】
7	看護師107	午前	91	「明確である」 【一般的というか、知識として押さ えてほしい内容が入っている】 【狭心症の心電図変化は一番問わ れやすいところであり、出題の意図は 明確である】	「難易度は低い」 【症状とか、症状から心電図を読み 取れるかというところを考えると、診 断名も書いてあるので易しい】 【基本的であり、頻出している問題 でもある】 【明らかな心電図変化であり、難易 度は普通から簡単である】	「明確である」 【正常心電図を提示してくれている ので、正常心電図と比較すれば答 えられる】	「臨床で必要な知識を問う問題に なっている」 【ST低下の波形は、臨床でいうよ りも学生のときから知っておいて もらいたい】	「教授内容から逸脱していない」 【教育機関での教授内容からすると 適切である】 【基本的な心電図の見方は、まず押 さえてほしい内容として入っている】 【臨床検査のほうと内科系疾病論 のところで、繰り返しやっている授 業である】 【このレベルの問題は、最低限、絶 対押さえている】	【波形を読ませたいのか、病気の所 見を答えさせたいのか曖昧であ る】 【狭心症を疑われてきて、トッドミ ルをしてその結果から診断するのは 医師である。この情報を看護にど う活かしてのかが重要であり、そ れを思うと出題の意図がわかりにくい】 【状況を入院中の患者がモニター 心電図を装着しており、波形が変だ から十二誘導心電図を取るとい う設定にしても良い】
8	看護師107	午前	92	「明確である」 【何を狙いたいのかという意図はと てもよく分かった】 【ただ消去法で解答を導くことが できる】 【この状態で例えば労作性狭心 症があって、ちょっと長かったです から、繰り返してたというところ があったものだから、乏尿のことも 必要は必要なのかなとか。】	「難易度はやや低い〜適切である」 【PCIという情報だけで答えられる ので、症状と検査データとかそう いうのをいれて、もうちょっと複雑 にしてもいい】 【一方で、消去法もできない学生 もおり、穿刺部位の感染兆候を選 んでしまう可能性もあるような 学生がいるため、難易度としては 適切である】 【過去にも出題されている】	「明確である」 【PCIということが理解できれば答 えられるし、手術直後と限定して いるので正答を導くことができる】	「臨床で必要な知識を問う問題に なっている」 【臨床において必要な知識を問 うものになっており、妥当である】	「教授内容から逸脱していない」 【教科書レベルである】 【必ず教授する内容である】	【症状や検査データとかを補足して、 もうちょっと複雑にしてもよい】

表6.続き

設問				必修問題・状況設定問題共通					
No	第〇回	午前 午後	問題 番号	①出題の意図は明確か	②難易度は適切か	③正答肢を選ぶ、あるいは誤 答肢を除くために必要な知識 について根拠は明確か	④設問は臨床において必要 な知識を問う問題となってい るか	⑤看護基礎教育の教授内容 から逸脱していないか	⑥改善すべき内容と具体的 にどのように改善したらよい か
9	看護師107	午前	93	「明確である」 【出題の意図は明確であり、ポイントは押さえられている】	「適切である」 【難しくもなく、簡単でもない】 【基本的な知識を問うている問題である】	「やや不明確である」 【この状況設定の場合「運転を控えましょう」と記載しているテキストもあり、「自動車の運転はやめましょう」という表現で正答を選ぶ際に迷う学生はいらぬと思う】	「臨床で必要な知識を問う問題になっている」 【臨床において必要な知識を問うものになっており、良いと思う】	「教授内容から逸脱していない」 【労作性狭心症の退院指導は、テキストには絶対に掲載されている内容である】	【一応、PCI直後の観察ポイントは出てるけど、その後の援助の内容がないためそれを問う設問でも良いと思う】 【患者は「症状が出るのが心配」といっているが、それを解決するような選択肢になっていないため、状況と選択肢がそぐわない】
10	看護師107	午後	91	「明確である」 【疾患の特徴的な症状を問うているので明確である】	「難易度はやや低い～適切である」 【PHとBMIだけで2と3がはいって除ができるので易しい】 【検査データが微妙であり、データの解釈からすると若干難しい】 【この呼吸器疾患もポピュラーである】	「明確である」 【検査データから誤答肢を導ける】	「臨床で必要な知識を問う問題になっている」 【臨床で当然知っているべきことである】	「教授内容から逸脱していない」 【呼吸器の疾患では、授業のなかでかなり力を入れてやるところである】 【ポピュラーな疾患である】 【必ず教えるところである】	特になし。
11	看護師107	午後	92	「明確である」 【換気障害の分類の特徴を理解できているかを問うており、出題の意図は明確である】	「難易度はやや低い～適切である」 【呼吸に問題なく、吸気に深く息が吸えないということで解答できるので、割と易しい】 【換気障害の分類は良く出題されている】	「明確である」 【病態と検査データが読めれば解答できる】	「臨床で必要な知識を問う問題になっている」 【臨床で必要な知識を問う問題である】	「教授内容から逸脱していない」 【呼吸機能や換気障害のところは教授内容の中で押さえられている】	【多くの情報を読ませているが、すべての情報を使わなくても解答できるため、看護にどう生かすか、呼吸法をどうするかという設問にすると良い】 【状況設定でなくても一般問題として出題すればよい問題である】
12	看護師107	午後	93	「明確である」 【退院指導を問うている問題で、出題意図は比較的明確である】	「難易度は低い」 【この疾患であれば、この選択肢とこのが全部読まなくても、すぐに解答がわかる】	「明確である」 【この疾患がわかれば解答が導ける】	「臨床で必要な知識を問う問題になっている」 【臨床でもこういった呼吸機能の状態がどこに分類されているのかとか、それを踏まえて指導しなければいけないという知識は全部必要である】	「教授内容から逸脱していない」 【症状と自己管理の指導ということであれば重要なことなので教育している】	【患者さんの訴えがあるが、その訴えが選択肢に反映されていないため、入院前の家での活動量やできる動作の情報を追加すると選択肢と合致する】 【「呼吸が苦しくて死ぬような思いをした」という情報が活かされていないので、この情報を活かすのであれば、一人暮らしという情報やソーシャルサポートも考慮した選択肢を考えると良い】

表6. 続き

設問				必修問題・状況設定問題共通					
No	第○回	午前 午後	問題 番号	①出題の意図は明確か	②難易度は適切か	③正答肢を選ぶ、あるいは誤答肢を除くために必要な知識について根拠は明確か	④設問は臨床において必要な知識を問う問題となっているか	⑤看護基礎教育の教授内容から逸脱していないか	⑥改善すべき内容と具体的にどのように改善したらよいか
13	看護師107	午後	94	「不明確である」 【どこに焦点を当てたいのかがわかりにくく、再出血の可能性を考えさせたいのか、頭蓋内圧亢進を考えさせたいのか、不明瞭である】 【臨床の経過がわかりにくく、出題の意図が見えにくい】	「適切である」 【教科書でも膜下出血のことを勉強していれば解答できる】 【それぞれの症状の明確な理解があれば解ける】	「明確である」 【初期判断として、くも膜下出血の疾患が分かれば答えられる】	「臨床で必要な知識を問う問題になっている」 【臨床状況が合っていないが、臨床では必要な知識である】	「教授内容から逸脱していない」 【教科書どおりの基本的な知識を問うている】 【くも膜下出血の臨床経過に合わせて教育している】	【どのような治療がされているのか状況が不明瞭のため、その点が明確になるような情報を補足したほうがよい】 【状況設定を変更したら、検査で未破裂の動脈瘤が分かり、手術でコイル塞栓するという設定にして、臨床現場に即した観察項目などを答えさせると良い】
14	看護師107	午後	95	「曖昧である」 【状況設定の臨床経過が不明瞭のため、実際の臨床経過の流れの中でみると出題の意図がわかりにくい】	「適切である」 【くも膜下出血の場合、まずは再出血、時間的に脳血管攣縮、たいぶ時間が経ってから水頭症という、それぞれの発症機序がある程度理解されていれば時期だけで判断できるので、本当は痙攣発作とせん妄という明らかに違うものの症状も、区別が付けられれば難しくはない】	「明確である」 【教科書にも記載があるし、脳血管攣縮を問いたいと思うと明確である】	「臨床で必要な知識を問う問題になっている」 【臨床状況が合っていないが、臨床では必要な知識である】	「教授内容から逸脱していない」 【教科書にもこのような疾患は記載されている】	【脳血管攣縮を問いたいのだと思うが、手術後6日は書いているが、いつ手術したかがはっきりしないため、その点を明確にしたほうが良い】 【教科書には「発症後数日」というふうに書かれているので、発症後何日かを明確にするとかわりやすくなる】 【いつ手術したかが分からず術後6日と書かれると知識のある学生のほうが迷う問題である】
15	看護師107	午後	96	「曖昧である」 【設問が何を問いたいのか意図がわかりにくい】 【問いがAさんへの看護で適切とあり、看護の何に焦点があたっているのか不明瞭である】	「難易度の判断が難しい」 【この設問の選択肢の1、2、3、4のどれもが状況と適合していないため、難易度の判断が難しい】	「不明確である」 【選択肢が全部がややこしく、どれを答えにしたらよいかわかりにくい】	「臨床で必要な知識を問う問題になっているか判断できない」 【患者の状況を踏まえた上で、アセスメントしたり看護をしていくと思うが、単に麻痺があり動こうとしない人にどうすればよいかという設問になっており、臨床現場に即した状況での判断力を問う問題になっていない】	「教授内容から逸脱していない」 【教科書にもこのような疾患は記載されている】	【ICU内でのリハビリとICUを退室したあとのリハビリでは、状況が異なるので、ここで何を考えさせたいのかが明確になるような情報を補足したほうが良い】 【例えば後半で、「意識は清明であるが動こうとしない」というところに焦点を当てたいのであれば、その状況に合わせた選択肢にしたほうが良い】 【リハビリの状況で「動こうとしない」というのは強調句のようにしか見えない】
16	看護師108	午前	94	「明確である」 【確定診断のための検査を問う設問であり、出題の意図はよくわかった】	「適切である」 【これは教えてるテキストどおりであり、適切である】	「明確である」 【検査の知識を持っていれば解答できる】		「教授内容から逸脱していない」 【これは教えてるテキストどおりである】	特になし。

表6. 続き

設問				必修問題・状況設定問題共通					
No	第○回	午前 午後	問題 番号	①出題の意図は明確か	②難易度は適切か	③正答肢を選ぶ、あるいは誤答肢を除くために必要な知識について根拠は明確か	④設問は臨床において必要な知識を問う問題となっているか	⑤看護基礎教育の教授内容から逸脱していないか	⑥改善すべき内容と具体的にどのように改善したらよいか
17	看護師108	午前	95	「明確である」 【この事例の患者は37歳で、30代の人の妊孕性について聞きたいことが想定されていることはわかった】	「難易度が高い」 【EC療法のシクロホスファミドの副作用である卵巣機能不全はポイントで難しく、学部生には難しい】 【薬剤特有の障害は難しいかもしれない】	「明確である」 【37歳の女性であるので妊孕性との結びつきで(抗がん剤による)卵巣機能障害を導くという意図があったと思うと、発症してからリンパ浮腫にはならないということを考えて削除していける】			
18	看護師108	午前	96	「明確である」 【初回のときにどうい症状が出て、それを踏まえて、2サイクル目のモニタリングを聞きたいのだろうなと思った。白血球は下がっているので意図はわかった】	「難易度の判断が難しい」 【難易度は難しいのか簡単なのかあまりよく分からない】	「明確である」 【データが読めないと解答に結びつかない】			【2時点の数値を示し、その数値の変化を読み取らせるほうが良い】 【一時点ではなく、白血球とか、単球、好酸球とかの数値の変遷とかを踏まえて、そういう変化を見つづ、それを見据えたモニタリングの設問にすると良い】
19	看護師108	午後	91	「明確である」 【C型肝炎、肝硬変の病態を問うている設問であることは明確である】	「適切である」 【C型肝炎・肝硬変で、吐血しているという状況から食道静脈瘤は容易に導くことができる】	「明確である」 【正答肢を選択するために、患者情報や状況、身体所見、検査所見において適切なデータが示されており、この状況から正答肢として食道静脈瘤を導くことは可能である】 【身体所見はショックを思わせるデータであるが、吐血しているという状況や示されている検査所見から、急性アルコール中毒や迷走神経反射、低血糖発作は否定でき識別しやすい】	「臨床で必要な知識を問う問題になっている」 【C型肝炎で肝硬変に移行している患者は臨床で良く見られる疾患である】	「教授内容から逸脱していない」 【学生への教授内容においても、肝硬変や静脈瘤については教育している】	【改善点は特にない】
20	看護師108	午後	92	「明確である」 【肝臓から骨盤腔内までの範囲の腹部超音波検査における援助の内容を問うという出題の意図は明確である】	「難易度として若干高い」 【誤答肢の1「検査直前に排尿を済ませてください」という選択肢を解答した学生が約60%おり、4の正答肢を解答した学生が20%であることを考えると、若干、問題としての難易度が高いと考える】	「明確である」 【肝臓から骨盤内臓器までの範囲で腹部超音波検査を受けるというところがポイントであり、その点がわかれば正答を導ける】	「臨床で必要な知識を問う問題になっている」 【現在の教育のなかで各検査の援助について詳細に教えられていないのが現状であるが、臨床では必要な知識ではある】	「教授内容から逸脱していない」 【現在の教育のなかで各検査の援助について詳細には教えられていないのが現状であるが、必要な知識ではある】	【状況文の修正案として、入院から4日が経過しているが、患者は入院後どのような経過をたどっているのかが不明であるため、例えば、出血や食事の状況に関する情報を補足すると、状況に基づいて判断しやすくなる】 【3年間受診を中断しているため、肝がんが発症していないかスクリーニングをするという状況にして、検査するように変更すると良い】

表6. 続き

設問				必修問題・状況設定問題共通					
No	第○回	午前 午後	問題 番号	①出題の意図は明確か	②難易度は適切か	③正答肢を選ぶ、あるいは誤答肢を除くために必要な知識について根拠は明確か	④設問は臨床において必要な知識を問う問題となっているか	⑤看護基礎教育の教授内容から逸脱していないか	⑥改善すべき内容と具体的にどのように改善したらよいか
21	看護師108	午後	93	「曖昧である」 【毎日ウイスキーを約300ml飲んでいる人で治療を3年間も中断している人に退院に向けた食事指導を問うているが、疾患管理を問いたいのか、看護的な視点による援助を問いたいのかわからない】 【「C型肝炎に対し抗ウイルス療法が開始された」と説明されているにもかかわらず、問いの選択肢にはそのことが一切関係していないため、設問の意図が分りにくい】 【抗ウイルス療法について触れるのであれば、その治療について問うなど一貫性を持たせた方がよいのではないか】	「適切である」 【肝硬変で食道静脈瘤が非代償期の患者の食事指導は難しい問題ではない】	「やや不明確である」 【C型肝炎から肝硬変になり食道静脈瘤がある非代償期の患者の場合、疾患管理という意味での食事指導であれば、この解答選択肢でも良い。しかし、3年間治療を中断している、飲酒量も多い患者に、禁酒を指導できるのかと考えると、正答を導く際に迷う学生もいると思し、正答にしてよいか疑問である】	「臨床で必要な知識を問う問題になっている」 【C型肝炎から肝硬変になり食道静脈瘤がある非代償期の患者の場合、疾患管理や食事指導は重要である】	「教授内容から逸脱していない」 【肝硬変で食道静脈瘤が非代償期の患者の食事指導は、学校でも教授している内容のため出題としての適切性も問題ない】	【C型肝炎に対し抗ウイルス療法が開始されている状況であれば、治療に関連した設問にして、そのあとに退院に向けた食事指導について看護的な視点から援助を問うようにすると良い】 【状況として家族の情報を入れたり、本人のS情報を入れて状況設定できると良い】 【3年も治療を中断しているため抗ウイルス療法の治療選択や意思決定支援などの設問が作れる】 【患者の食事指導をするにあたり、中断した経緯や飲酒300mlについて患者がどう思っているのかという点を補足する上で重要なので、どういった情報が必要かということも問う設問でも良い】 【この問題では他に焦点が当たっているが、成人期なので家族の情報も入れて、家族に対する食事指導という設問にもできる】
22	看護師108	午後	94	「明確である」 【脳梗塞の原因を既往歴や検査所見から判断させており明確である】	「適切である」 【難易度も問題ない】	「明確である」 【選択肢の2「胃潰瘍」は明らかに違うことがわかる。高血圧は、5年前から高血圧と状況に記載されており容易に選択できる】		「教授内容から逸脱していない」 【教授内容と照らして、出題の適切性も問題ない】	【心電図の所見でRR間隔は不定という情報がないため、もう少し状況を補足すると良い。例えば、心電図の波形を入れるなどするとその知識も問える】 【選択肢の2「胃潰瘍」は明らかに違うことがわかるので、4択から2択選ぶようになっているため、2の選択肢を懸念肢にできる工夫をすと良い】 【選択肢の高血圧は、5年前から高血圧と状況に記載されており容易に選択できるが、脂質異常症なども重要なので、そのあたりも選択肢に入ると良い】
23	看護師108	午後	95	「曖昧である」 【設問が声かけの適切さを問っているが、コミュニケーションの取り方を問いたいのか、うつ状態の人の関わりを問いたいのかわかり不明瞭である】	「難易度は低い」 【98%の学生が解答できていることから考えると易しい】	「明確である」 【コミュニケーションにおいてうつ状態になっている人や何もできないと無力感をもっている人には共感的な態度を示すことはある意味コミュニケーションを問うパターンになっているので、解答を導きやすい】	「臨床で必要な知識を問う問題になっている」 【コミュニケーションにおいてうつ状態になっている人や何もできないと無力感をもっている人には共感的な態度を示すことはある意味重要である】	「教授内容から逸脱していない」 【教授内容と照らして、出題の適切性も問題ない】	【50歳男性、会社員なので、仕事への焦りだったり、妻の不安や自責の念だったり、成人期では、仕事や家族の悩みといったところも発達課題として重要な視点なので、それらも含めて検討できる設問にしてほしい】 【うつ状態の人への関わりを問いたいのであれば、声かけではなく、うつ状態の人にどういうケアが必要かという設問にする、例えば眠れないという睡眠に対するケアの選択肢を入れることができるため、設問の工夫を工夫できる】 【障害受容のプロセスを用いて、患者本人のS情報を補足し、患者のこの状況はどの段階にあたるのかを判断させるとか、セルフケアに関する情報を入れて、セルフケア不足に対して何をどこまで援助者が患者を介助するのかを判断させるような設問にしても良い】 【可能であれば、中範囲理論などを使って状況を判断して解答できるような設問だと臨床にとても実践に役立つと思う】
24	看護師108	午後	96	「曖昧である」 【チーム医療のことを問いたいのだと思われるが、退院前カンファレンスで適切なのはどれかという設問になっており、出題の意図がわかりにくい】	「難易度は低い」 【選択肢が、1と3は同じような内容であり、誤りであることは明確なので、2択から1つ正答肢を選ぶようになっている】 【98%の学生が正答できている】	「不明確である」 【チーム医療のことを問いたいのだと思うが、状況と設問、選択肢がそぐわないため不明瞭である】 【状況がなくても選択肢を読んで判断できる】	「臨床で必要な知識を問う問題になっているか判断ができない」 【チーム医療のことを問いたいのだと思うが、状況と設問、選択肢がそぐわない】 【状況がなくても選択肢を読んで判断できる】	「教授内容から逸脱していない」 【教授内容と照らして、出題の適切性も問題ない】	【状況設定において、患者の身体回復状況やADLの状態、何がどこまでできるようになったかという変化、職種などについて情報が不足しているため、補足できると地域包括などをイメージできる状況になり、その中の看護師の役割を問う設問に工夫できる】 【多職種チームとあるがどの職種がカンファレンスに参加しているのかも不明なので、その情報を入れながら、看護師としてカンファレンスまでどういう情報を得ておくかといった設問の工夫もできる】 【成人期の発達課題から考えると家族や仕事は重要なので、妻への関わりや、仕事に関する設問もできる】

表6. 続き

設問				状況設定問題のみ				
No	第○回	午前 午後	問題 番号	⑦選択肢が出題の意図の原則そのものとなり、個別状況が不要ではないか	⑧正答肢が状況に関する知識がなくても選択できるようになっていないか	⑨設問文は連問ではなく単問の形式で実践能力を評価できているか	⑩状況文は現実的かつ多すぎではないか	⑪問題の情報量と回答に要する時間の関係は適切か
1	看護師106	午後	115	「個別状況は不要でない」 【状況設定の検査データを見て判断させるような問題になっている】	「知識は必要である」 【検査データを読んで、そこから判断させるような問題になっている】	「単問の形式で評価できる」 【単問で解答できるが、状況設定の部分が不要になる】	「状況が現実的ではない」 【横紋筋融解症はメジャーな疾患でない】【状況が全体的に複雑である】	「不適切」 【状況が複雑であり、検査データをそれぞれ読み解くのが難しい】
2	看護師106	午後	116	「個別状況は不要でない」 【状況と検査データを読んで回答を導き出した】	「知識は必要である」 【状況と検査データを読んで回答を導き出した】 【検査データの基準値を覚えていないと解答できない】	「単問の形式で評価できる」 【単問で解答できるが、状況設定の部分が不要になる】	「状況が現実的でない」 【急性腎不全の回復期で、安定してきたら食事指導も不要になるが、どこに焦点を当てた退院指導なのかを考えると現実的でない】	「不適切」 【前半の状況が、この問と関係がないため、必要以上に時間がかかってしまう】 【状況が少ないため、患者の経過がわかりにくい】
3	看護師106	午後	117	「個別状況が不要になっている」 【狭心症と急性心筋梗塞という病名で解答が判断できる】	「知識は必要である」 【当たり前のような知識であるが、知識は必要である】	「単問の形式で評価できる」	「状況は現実的である」 【現実的な状況であり、シンプルである】	「適切」 【文章の長さはちょうどよい】 【判断に要する時間も問題ない】
4	看護師106	午後	118	「個別状況が不要になっている」 【状況が十分に活かされていない】 【200m歩行の許可がでているということのみで解答できる設問になっている】	「知識は必要である」	「単問の形式で評価できる」	「状況が現実的でない」 【心臓リハビリテーションは、医師の指示によって理学療法士が提供していくものであり、どういうトレーニングをするかまでは看護師の範疇ではないと思うと、現実的でない】 【状況と選択肢が一致していない】	「適切」 【文章の長さはちょうどよい】 【判断に要する時間も問題ない】
5	看護師106	午後	119	「個別状況は不要でない」 【検査データが読めれば、解答を導ける】 【疾患の病態と検査値が分かっていたら答えられる】	「知識は必要である」 【疾患の病態と検査データが分かれば解答できる】	「単問の形式で評価できる」	「状況は現実的である」 【年齢層も合致しているし、あとの設問につながっている】 【その人個人の情報があるので、特に問題ない】	「適切」 【文章の長さはちょうどよい】 【判断に要する時間も問題ない】
6	看護師106	午後	120	「個別状況は不要でない」 【状況設定問題ならではの説音である】 【SLEのこととステロイド治療のことが分かってないと解けない問題である】	「知識は必要である」 【SLEのこととステロイド治療のことが分かってないと解けない問題である】	「単問の形式で評価できる」	「状況は現実的である」 【プレドニゾロンの60ミリを毎日飲んだら、多分1週間ぐらいで抑うつや躁になり、現状に即している】 【精神状態は確かに1週間ぐらいで変わっていくのは分かるし、多幸感の後半の方に出現するが、60ミリを毎日飲んだら絶対1週間て躁になったり、不眠になる】【臨床に出てると分かるので、現実的である】	「適切」 【文章の長さはちょうどよい】 【判断に要する時間も問題ない】
7	看護師107	午前	91	「個別状況が不要になっている」 【波形を読めなくても狭心症と書いてあるため、心電図を読める読めないに関係なく解答が分かってしまう】 【狭心症イコールSTを見るということは、他の選択肢がなくても分かる】	「知識は必要である」 【基本的な知識があれば正解にたどり着くことができる】	「単問の形式で評価できる」	「状況がやや現実的でない」 【この状況設定における症状だと確実に狭心症が疑われると思うが、この状況でトレッドミルをやるのは危険ではないかということと、CT検査をするのではないかとはいえる】	「適切」 【問題ない】

表6. 続き

設問				状況設定問題のみ				
No	第○回	午前 午後	問題 番号	⑦選択肢が出題の意図の原則 そのものとなり、個別状況が不 要ではないか	⑧正答肢が状況に関する知識 がなくても選択できるようになっ ていないか	⑨設問文は連問ではなく単問 の形式で実践能力を評価でき ているか	⑩状況文は現実的かつ多すぎ ではないか	⑪問題の情報量と回答に要す る時間の関係は適切か
8	看護師107	午前	92	「個別状況が不要になっている」 【状況設定でなくても一般問題のよう にこれ単独の問題でも解答できる】 【基本的で重要な知識として聞きたい としても一般問題でも十分知識を問 える問題である】	「知識は必要である」 【PCIに関する知識がないと解答でき ない】	「単問の形式で評価できる」	「状況がやや現実的でない」 【最近は、PCIの部位として足でなく手 を使用しているため、臨床的にやや外 れている】	「適切」 【問題ない】
9	看護師107	午前	93	「個別状況が不要になっている」 【状況が活かされていない】 【狭心症の退院指導がわかれば、状況 を読まなくても解答できる】	「知識は必要である」	「単問の形式で評価できる」	「状況が現実的でない」 【大腿動脈からPCIを受けているため、 入院期間が長いだと推察したが、今 は長く入院しないので、術後4日も入院 していると患者の状態が悪いというふう に思った学生がいる】	「適切」 【問題ない】
10	看護師107	午後	91	「個別状況は不要でない」 【データを讀んで判断できる問題である が、データを讀み込まなくても消去法で 解答が出せる】	「知識は必要である」 【単純に知識があれば答えられる】	「単問の形式で評価できる」	「状況は現実的だが、状況文が多い」 【状況文は現実的であるが、結構文章を 読ませて不必要な情報が多い】	「不適切」 【不必要な情報が多く、多くの検査デー タを読ませるため時間がかかる】
11	看護師107	午後	92	「個別状況は不要でない」 【病態を理解し、検査データが読めな いと正答できない】	「知識は必要である」	「単問の形式で評価できる」	「状況文は多すぎではない」 【ここは状況文と言うより図であり、問題 ない】	「不適切」 【不必要な情報が多く、多くの検査デー タを読ませるため時間がかかる】
12	看護師107	午後	93	「個別状況が不要になっている」 【疾患がわかれば状況文がなくても解 答できる】 【「苦しくて死ぬかと思った、あんな思 いたくない」と言っている状況文と、選択 肢が合致していない】	「知識は必要である」 【疾患の知識があれば解答できる】	「単問の形式で評価できる」	「状況文は多すぎではない」 【文章の長さ的にはいいと思うが、糖尿 病があつて肺炎を繰り返しているとい うことが重要かと思ひ、そちらのほうを 気にしながら読み進めていくと、そうい うことは全然触れられておらず、情報 が活かしきれない】	「適切か判断できない」 【退院指導になっているので、その判 断にかかる時間っていうのが判断しきれ ない】【文章の長さ的にはいいと思う が、状況文と選択肢が不一致という か、マッチしてない】
13	看護師107	午後	94	「個別状況が不要になっている」 【疾患状況と経過時間のみで答えられ るパターンであり、状況に関係な く疾患がわかれば解ける問題である】	「知識は必要である」 【くも膜下出血の症状の理解があれば 解ける】	「単問の形式で評価できる」	「状況が現実的でなく、状況が不足して いる」 【通常はくも膜下出血と診断され、ICUに 入室するまでに確定診断がつき、手術 を終えてからICUに入室するため、状況 が合致していない】 【どのような治療がされているのか状況 が不明瞭のため、その点が明確になる ような情報を補足したほうがよい】	「適切である」 【文章の長さ自体は読みながら、問題は 感じなかった】

表6. 続き

設問			状況設定問題のみ					
No	第〇回	午前 午後	問題 番号	⑦選択肢が出題の意図の原則 そのものとなり、個別状況が不 要ではないか	⑧正答肢が状況に関する知識 がなくても選択できるようになっ ていないか	⑨設問文は連問ではなく単問 の形式で実践能力を評価でき ているか	⑩状況文は現実的かつ多すぎ ではないか	⑪問題の情報量と回答に要す る時間の関係は適切か
14	看護師107	午後	95	「個別状況が不要になっている」 【一般問題みたいな感じで解ける】 【その状況から何か推論して、解答する というよりも、術後6日に何が発症するか がわかれば解ける】 【単問みたいに、一般問題に近いような 知識を問うような形式になっている】	「知識は必要である」 【知識があれば解ける問題である】 【ある程度勉強していれば解ける】	「単問の形式で評価できる」	「状況が現実的でない」 【臨床状況と即していない】 【発症のところが手術のときの時系列 の区別がつかないで状況がわか りにくい】	「適切である」 【文章の長さ自体は読みながら、問題は 感じなかった】
15	看護師107	午後	96	「個別状況が不要になっている」 【状況文が活かされておらず、一部の情 報のみで解答できる】 【この設問の答えが状況と合っておらず 1、2、3、4どれもうまく適合していない】 【年齢やその人の背景も含まれている がその状況を踏まえた設問になってい ない】	「状況文と選択肢が合致していないた め、判断できない」 【この設問の答えが状況と合っておらず 1、2、3、4どれもうまく適合していない】	「単問の形式で評価できる」	「状況が現実的でない」 【リハビリに対するアセスメントをする としたら、どこができてどこができないの かを答えさせようとしていると思うと、状 況の情報不足している】 【ICUを出たのか出てないのかという こと自体も書いてないため、この状況設 定問題は、経過の流れとか設定は現実 的に無理がある。】	「適切である」 【文章の長さ自体は読みながら、問題は 感じなかった】
16	看護師108	午前	94	「個別状況が不要になっている」 【問い方が状況がなくても問える問題で ある】 【状況関係なく解答できる】	「必要な知識である」 【教えているテキストの知識があれば答 えられる】	「単問の形式で評価できる」	「状況は現実的である」	「適切である」 【文章の長さ自体は読みながら、問題は 感じなかった】
17	看護師108	午前	95	「個別状況は不要でない」 【事例の患者は37歳で、30代の人の妊 娠性について問いたいことが想定される】	「知識は必要である」 【EC療法シクロフォスファミドの副作 用である卵巣機能不全は難しい】	「単問の形式で評価できる」	「状況は多すぎない」 【文章は長くない】	「適切である」 【文章の長さ自体は読みながら、問題は 感じなかった】
18	看護師108	午前	96	「個別状況は不要でない」 【データが読めれば解答できる】	「知識は必要である」 【データが読めないで解答に結びつか ない】	「単問の形式で評価できる」	「現実的であるが、検査値が多い」 【こういう患者さんいるんだろうと思 うが、数値が多くストレスを感じる】	「適切である」 【学生たちがこれは正常とかこれは異常 とかと読みながらいく分には問題はな い】
19	看護師108	午後	91	「個別状況は不要でない」 【正答肢を選択するために、患者情報や 状況、身体所見、検査所見において適 切なデータが示されており、この状況か ら判断して正答肢を導くようになっ ている】	「知識は必要である」 【患者情報や状況、身体所見、検査所 見から判断するため、知識は必要であ る】	「単問形式で評価できる」	「状況は現実的である」 【状況文は適切である】	「適切である」 【状況文や問題文、選択肢の文章の長 さも適切であり、読み取りや判断にか かる時間も問題ない】

表6. 続き

設問			状況設定問題のみ					
No	第○回	午前 午後	問題 番号	⑦選択肢が出題の意図の原則そのものとなり、個別状況が不要ではないか	⑧正答肢が状況に関する知識がなくても選択できるようになっていないか	⑨設問文は連問ではなく単問の形式で実践能力を評価できているか	⑩状況文は現実的かつ多すぎではないか	⑪問題の情報量と回答に要する時間の関係は適切か
20	看護師108	午後	92	「個別状況が不要になっている」 【この問題は状況設定がなくても単独で解答できる問題になっており、一般問題のようにしている】	「知識は必要である」 【一般問題のようにしているが、検査の援助に関する知識は必要である】	「単問形式で評価できる」	「状況は現実的でなく、状況文が少ない」 【通常、吐血した場合は絶食にすると思われるが、正答肢が「検査当日は、起床時から飲食物を摂取しないでください」となっており、現実的な状況とそぐわない】 【絶食にしている、腹部超音波検査の場合一般的な知識として飲食物を摂取しないという知識を問いたかったのだと思われるが、この状況設定からすると違和感がある】 【絶食にしていれば持続点滴をしていると思うが、その状況も含まれていないため、もう少し状況を補ったほうが良い】 【肝がんのスクリーニング検査のために腹部超音波検査をしているが、通常、C型肝炎・肝硬変と診断された段階で医師から肝がんの発症リスクの説明を受けると思われるため、5年も経過してから肝がんの発症リスクがあると説明するのは、現実的な臨床状況とはそぐわない】	「適切である」 【状況文や問題文、選択肢の文章の長さも適切であり、読み取りや判断にかかる時間も問題ない】
21	看護師108	午後	93	「個別状況が不要になっている」 【状況が少なく、一般問題のようにしている】	「知識は必要である」 【一般問題のようにしているが、C型肝炎から肝硬変になり食道静脈瘤がある非代償期の患者の場合、疾患管理や食事指導は重要であり知識は必要である】	「単問形式で評価できる」	「状況は現実的でなく、状況文が少ない」 【果たして毎日300mlお酒を飲んでおり、しかも3年間も治療を中断している人に禁酒するという指導は現実的なのか疑問である】 【状況文が少ないため、家族の情報を入れたい、本人のS情報を入れて状況設定できると良い】	「適切である」 【状況文や問題文、選択肢の文章の長さも適切であり、読み取りや判断にかかる時間も問題ない】
22	看護師108	午後	94	「個別状況は不要でない」 【脳梗塞の原因を既往歴や検査所見から判断させている】	「知識は必要である」 【脳梗塞の原因を既往歴や検査所見から判断させている】	「単問形式で評価できる」	「状況は現実的であり、状況文も適切である」 【問題文、選択肢の文章の長さも適切である】	「適切である」 【状況文や問題文、選択肢の文章の長さも適切であり、読み取りや判断にかかる時間も問題ない】
23	看護師108	午後	95	「個別状況が不要になっている」 【基本的で重要な知識として問いたいとしても一般問題でも十分知識を問える問題である】	「知識がなくても解答できる正答肢になっている」 【このパターンであれば4が正答肢としたい学生も分かっており、サービス問題になっている】	「単問形式で評価できる」	「状況は現実的でなく、状況文が少ない」 【状況設定も現状とそぐわず、入院してから3週だと、障害受容のプロセスで考えた場合、うつ状態になる時期が遅く、もう少し早い時期の状況設定にしても良い】 【麻痺の程度やADLの状態が記載されていないため、そのあたりの情報を入れて判断させられると良い】	「適切である」 【状況文や問題文、選択肢の文章の長さも適切であり、読み取りや判断にかかる時間も問題ない】
24	看護師108	午後	96	「個別状況が不要になっている」 【状況がなくても回答できる】	「知識がなくても解答できる正答肢になっている」 【選択肢が、1と3は同じような内容になっており、誤りであることは明確なので、2択から1つ正答肢を選ぶようになっている】 【状況がなくても選択肢を読んで判断できる】	「単問形式で評価できる」	「状況は現実的である」 【状況文は適切である】	「適切である」 【状況文や問題文、選択肢の文章の長さも適切であり、読み取りや判断にかかる時間も問題ない】